

第 8 期

札幌市廃棄物減量等推進審議会（第 8 回）

議 事 録

日 時：平成 29 年 3 月 15 日（水）午前 10 時開会
場 所：札幌市役所本庁舎 12 階 1～3 号会議室

1. 開 会

○福士会長 おはようございます。

定刻になりましたので、ただいまから、第8期札幌市廃棄物減量等推進審議会の第8回本会議を開催させていただきます。

本日は、ご多忙の中をご出席いただき、まことにありがとうございます。

本日の会議については、11時30分ごろを終了予定としておりますので、ご協力をお願いいたします。

それでは、事務局から、本日の出席状況と配付資料の確認をお願いいたします。

○事務局（高橋企画係長） 皆様、おはようございます。

事務局を務めております札幌市環境局循環型社会推進課の高橋です。

本日も、皆様ご審議をよろしくお願いいたします。

本日は、石井委員、越智委員、山本委員、遊佐委員の4名が、所用によりご欠席となっております。

13名中9名と過半数の委員にご出席いただいておりますので、札幌市廃棄物の減量及び処理に関する条例施行規則第5条第1項の規定に基づき、この会議が成立していることをご報告させていただきます。

続きまして、お手元の資料を確認させていただきます。

まず、式次第があるかと思います。2つ目として、答申の主な内容についてというA3判の資料が1枚、3つ目として、起草委員会についてというA4判の資料が1枚、合計3点の資料がお手元にあるかと思いますが、足りない方はいらっしゃいませんか。

それでは、ご審議をよろしくお願いいたします。

2. 議 事

○福士会長 それでは、議事に移りたいと思います。

まず、答申の主な内容についてです。

前回の第7回の本会議では、これまでの議論等をもとに、7月に予定している答申の方向性のうち、基本目標、基本方針等について審議を行っていただきました。答申案は、4月と5月の2回の起草委員会で作成して、6月の本会議で最後のご確認をいただく予定になっておりますが、答申の方向性について、共通認識を持って起草委員会を開きたいと考えておりますので、本日は、答申の枠組みとなる構成案を含めた答申の全体の内容について審議していただきたいと思っております。

まず、事務局から資料の説明をお願いいたします。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） 皆さん、おはようございます。

循環型社会推進課長の山岡でございます。

それでは、答申の主な内容についてというA3版の資料の説明をします。

まず、この資料は、答申の主な内容についてということで、先ほど会長からもお話があ

ったとおり、起草委員会に入る前に、委員の皆様にご共有認識を持っていただくため、答申の方向性や全体像、構成やそれぞれの骨子とすべき内容について、これまで皆さんにご議論いただいた内容を踏まえて事務局で整理した資料となっております。

まず、資料の左上の構成（案）をご覧ください。

答申の構成としては、まず、Ⅰ 次期計画の策定に当たって、Ⅱ 次期計画の方向性、Ⅲ 次期計画で重点的に取り組むべき事項、Ⅳ 次期計画の策定において留意すべき視点という4章構成で整理しております。

それでは、早速、Ⅰ 次期計画の策定に当たってについて説明します。右横の緑色の枠で囲っているあるところです。

第1章の次期計画の策定に当たってのところでは、現計画の進捗状況やその評価、国等の動向、今後の課題など、現状整理を行うことになります。

次に、左下の次期計画の方向性、茶色の枠組みのところでは、

ここで、前回の本会議でご議論していただいた基本目標や基本方針、管理目標など、次期計画の基本的な考え方や方向性をうたうことになります。

第3章は、右側のピンク色のところですが、ここに次期計画で重点的に取り組むべき事項を記載しております。内容としては、主に、昨年9月から11月に開催したグループ会議でご議論していただいた内容を重点施策として盛り込む形になります。

最後の第4章の次期計画の策定において留意すべき視点というところでは、重点的な取組事項とは別に、次の計画を策定するに当たっての留意すべき視点を記載することになります。

構成については、今申し上げたような形で整理しております。

それでは、それぞれの内容について説明させていただきます。

まず、第1章の次期計画の策定に当たってをご覧ください。

この中で、1番目として、現計画の進捗状況についてです。

ここでは、ごみの排出状況や現計画での主な取組、ごみ量の管理目標の達成状況など、この審議会と言うと序盤の第2回、第3回の本会議で行った議論をベースに整理することになります。

2つ目は、現計画の評価でございます。

平成26年3月に改定した現計画において実施している施策や取組などについて、順調に進んでいるものやなかなか取組がはかどらないもの、足りないものなどの評価を行うことになります。

次に、3番目の国等の動向でございます。

これまでの資料でも示してきた国の第3次循環計画や廃棄物処理法基本方針、札幌市まちづくり戦略ビジョンや環境基本計画など、関連する計画における方向性をここで整理することになります。

この章の最後に、1から3を踏まえて、4つ目として今後の課題を整理することになり

ます。

具体的には、リデュース・リユースといった2R等によるごみ減量に向けた取組の推進や超高齢社会への対応、市民・事業者・行政の連携、大規模災害に備えた廃棄物処理システムの強靱化などが課題としての内容になるかと思います。

次に、第2章の次期計画の方向性でございます。

ここは、前回の本会議で取り上げて議論していただいたと思いますが、その内容を反映し、整理しております。

まず、次期計画の方向性についてですが、現計画をベースにしながら、今の計画において足りない点や弱いところをさらに強化していくこと、また国や札幌市の関連計画の方針、さらには今後予想される社会動向を踏まえて、新たに取り入れるべき事項を追加することを基本的な立場とするという中で、基本目標、基本方針、管理目標、指標に取り入れるべき考え方をまとめております。

基本目標についてですが、現計画でも掲げております循環型社会の実現を基本目標とするわけですが、前回の本会議でご意見をいただいた未来志向や市民の取組意欲が湧く表現を取り入れたいということを追加しております。

次に、2番目の基本方針です。

現計画では、環境、経済、社会の3つに整理しておりますが、次の計画には、黒丸で示した4つの考え方を新たに取り入れるということです。

1つ目の3Rのさらなる推進についてですが、リデュース・リユースの2Rを優先した取組の実施や、リサイクルにおける分別排出の質の向上、さらには、前回の会議の意見を踏まえて、まだ取り組んでいない未利用資源について、リサイクル技術等の発展や、その活用状況を見ながら取り入れるという観点から、未利用資源の活用を追加しております。

2つ目は、市民、事業者、NPO等との連携でございます。

今回、NPOの役割を明確に示す方向で修正しております。内容としては、関係団体や事業者と連携したごみの減量、資源化の促進という観点、また、行政がNPO等と連携して市民と事業者のコーディネーターの役割を担うといった考え方がここに入ります。

3つ目は、効率性の向上になります。

効率性の1つに環境効率性ということがありますが、前回の本会議で、その意味、意義について質問があったため、改めて説明いたします。

一般的に、生産を含む経済活動に伴って生じる環境負荷が小さければ効率性が高いということになります。廃棄物で言うと、ごみについては、焼却、埋め立てするよりも、天然資源の消費量や温室効果ガスを抑えることになるリサイクルの取組や、そもそも発生を抑制するというリデュースの取組の方が環境効率性は高いことになります。次期計画においては、そのような環境効率性を意識した取組が重要であるということになります。

また、リサイクルや廃棄物の適正処分について、環境効率性だけではなく、処理コストを抑えるといった観点や、工場などにおいて、発電などでつくり出すエネルギーを増やす

エネルギー効率性といった観点も必要と考えられます。

4つ目としては、安全・安心ということで、先週土曜日で東日本大震災から6年がたったわけですが、札幌でもいつ大規模災害が起きるかわかりません。そうした大規模災害に備えて、近隣市町村との連携を含めた廃棄物処理システムの強靱化の考え方になります。

3番目の管理目標、指標についてですが、現計画のごみ量の管理目標とは別に、新たな目標としての考え方ということで3つを示しております。

1つ目は、資源物を含めた廃棄物総量を削減するための目標、2つ目は、市民や事業者の取組を強化する視点からの目標、3つ目は、コストやエネルギーの効率化といった視点からの目標となります。

次に、答申の第3章、右側の中段のピンク色のところですが、次期計画で重点的に取り組むべき事項となります。

ここは、主にグループ会議で議論した内容について、重点的に取り組むべき事項として、2R、資源化の両グループの報告をもとに、3つの項目に整理しております。

1つ目の重点目標は、3Rのさらなる推進です。

2つのグループのテーマであった2Rと資源化をあわせて、重点項目としては3Rにまとめました。その中で、2Rとリサイクルの2つに分けております。

2Rの取組推進については、リデュースを促す取組やリユース機会の提供、食品ロス対策といった、2Rグループで主に議論した内容を整理します。リサイクルの取組推進については、資源回収の促進、分別・排出ルールの周知徹底、生ごみ堆肥化への取組支援といった、主に資源化グループで議論した内容を整理します。

次に、右側の2の高齢化等今後の社会への対応についてでございます。

こちらについては、2つのグループとも、高齢者対策など、今後の社会への対応に関する意見があったことから、これを1つの重点事項に整理させていただきました。ごみ出しが困難な高齢者への対応や新たなリサイクル品目、民間を活用したリサイクルシステムなどについて、将来的に検討していくといった内容がここに含まれます。

3つ目の重点事項は、事業ごみの減量に向けた取組の推進になります。

事業ごみの減量についても、2つのグループにおいて意見が出ていたことから、1つの重点事項として整理しました。

内容としては、事業者の自主的なごみ減量への取組や、事業者による分別、資源化の促進といったことになります。

最後に、第4章の次期計画の策定において留意すべき点です。

こちらは、第3章の重点的な取組事項とは別に、次期計画の策定において留意していかなければならない視点を整理することになります。

これまで、答申の形にした際、ここに当たるものは特に議論しておりません。そうした関係から、あくまでも参考として、現計画の改定に当たり、平成25年7月の答申で挙げられていた6つの視点を記載しております。

今回の審議会でも、グループ会議を含めて、この間、例えば、市が進める施策や市民に協力を求めたり周知する際、情報提供や発信の仕方、対象者に応じた効果的な普及啓発の工夫などについていろいろな意見が出されていたかと思います。また、未来を担う子どもたちに環境意識を定着させるため、ごみの減量、資源化に関する環境教育の重要性についても議論されてきたかと思います。

本日は、次期計画策定において留意すべき視点、まさに第4章に盛り込むべき内容について、特にそこを意識してご議論していただければと思っております。

答申の主な内容についての資料の説明は以上です。

○富士会長 どうもありがとうございました。

答申の主な内容について、4つに分けて説明していただきました。

1つ目は次期計画の策定に当たって、2つ目は次期計画の方向性、3つ目は次期計画で重点的に取り組むべき事項、これは皆さんに部会でお話いただいた内容になります。また、4つ目の次期計画の策定において留意すべき視点については今まで議論しておりませんでしたので、こういう点に留意して答申をつくってほしいということで、新たにご意見をいただければと考えております。

本日が起草委員会前の最後の本会議となりますので、さまざまな視点から広く意見をいただきますよう、お願いしたいと思います。

それでは、答申の全体の内容について、ご意見やご質問をお願いします。

○河崎委員 次期計画の方向性の中に、管理目標、指標とあり、3つの中身で整理しております。事務局の考え方として、1番目は、廃棄物総量を削減する目標なので、恐らく数値化した目標値だと思います。その後の市民や事業者の取組を評価する視点に立った目標と、コスト効率化、エネルギー効率化の視点に立った目標については、数値化して表現したいという方向なのか、そうではなくて、もっと別な言葉で目標を定めるのか、その辺がわからなかったのでお伺いします。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） 今の段階で、こういう視点や考え方に立った目標として、どんなものが考えられて、その数値がどうなるかというところまで考えておりません。ただ、目標とする以上は、言葉だけではなくて、何らかの数字を示さないと、目標にはなり得ないのではないかと考えております。

○河崎委員 もう1つあります。

同じ次期計画の方向性ですが、2番目の基本方針の市民・事業者・NP0等との連携というのがあります。NP0との連携はよくわかりますが、最初の関係団体や事業者との連携について、関係団体は町内会などを考えていると思います。それ以外に、こういう団体を頭に置いて整理したということがあれば教えていただきたいと思います。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） 確かに、ここで言う関係団体の1つには町内会などが入ると思います。そのほかに、古紙回収の業者を束ねている協同組合などの組織もあります。それは、事業者とは位置づけが違うと考え、関係団体として考えております。

○福士会長 ほかにいかがですか。

○納谷委員 IVの次期計画の策定において留意すべき視点について、環境教育が考えられますが、札幌市では、今の段階で、小学校や中学校で3Rに関してどのように教育しているのか、それがわかれば、今後どのようにしていけばいいのかという解決策につながると思っています。幼稚園レベルでも、もしやっているところがあれば、具体的な方法を伺いたいと思います。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） 正確な情報ではないかもしれませんが、今、小学4年生が清掃工場の見学などを行っております。それから、各学校でフードリサイクル事業をやっております。学校によって取組に温度差があるかもしれませんが、小学校では、ごみの減量や資源化につながる教育をやっております。幼稚園などについては、こちらでも整理しておりませんので、次の計画では、その辺を重点的に取り組んでいく必要があるかと思っております。

○納谷委員 私の記憶では、清掃工場の見学に行った時、大きな機械が動いているなぐらいの感想で、いかに皆さんが大変な仕事をされているのかということや、自分たちが出しているごみがどのように処理されているのかという概念があまりわからないまま、楽しい課外活動になっているという気がしました。なぜ見学に行くのかという理由が小学生だと分からないので、見学の前に、ごみを分けることの重要性について、一言、先生が言ってくれたりするといいと思います。なぜごみを分けなければいけないのか、なぜ札幌市の方がこうやってくださっているのかという重要性を小さいうちに学んでおけば、大学生になったときに、ごみを分けないという考え方にならないのかなと10年前を思い返して思いました。

そういった点で、札幌市と小学校が連携してやれればと個人的に思いました。

○福士会長 私も、資源化工場に大学生を連れて行っています。みんな見たことはあっても、詳しい内容については分からないという人が多いです。ですので、見せるだけではなくて、今おっしゃられたように、事前の学習をしたりして行くと効果的だと思います。

○河崎委員 環境教育の内容について、この間、カリキュラムを見せていただきました。地球環境とかグローバルな視点に立った環境教育は随分ありますが、ごみの問題は余り触れていませんでした。子どもたちにとっては、ごみのほうが目に訴えるものがあるので、子どものころからそういうことを身につけさせる教育を充実したほうがいいのではないかという考えを持ちました。

○草野委員 2つあります。

一つは、基本目標があって、それに対する方針が4つ挙がっていると思いますが、どういう作戦で達成しようとするのか、戦略がかなり重要になってくると思っています。どこを突けば、ほかのところにも効果が広がっていくかということが大事になってくると思っているんで、並列ではなくて、少し濃淡はあるのではないかと個人的に思っています。

今後、起草委員会で話をしていくに当たって、世代別にどういうアプローチしているの

かという全体像がよくわかりません。例えば、18歳ぐらいであれば、札幌市以外から移住してきた人に対するPRがあると思います。それから、事業者の分別の意識のためにどうやっているのかなど、全体像が見える資料があると、今後は進めやすいと思っています。それがあると、ここが手薄なので力を入れなければいけないのではないかなど、これを詰めていく段階で進めやすくなる資料だと思っておりますので、もしあればお願いしたいと思っております。

それから、環境教育の話が幾つか出ておりましたが、今の世界の動きから言うと、SDGsという国連の持続可能な開発のための目標が示されています。この中には例えば、貧困の話も入っていますし、廃棄物の話や温暖化などいろいろなものが網羅されていて、こういう方向に世界が向かっていくといいですね、ということが示されています。

環境教育の話がもし入ってくるのであれば、こういった世界の動きと結びついてくると、僕たちだけの独自のものではなくて、札幌市は、世界の動きを意識しながら、そちらにかじを切っているというのが見えてきて、成果が出てくると思います。もしよければ調べていただいて、盛り込めるのであれば、それを意識すると、目標を立てやすくなってくるのではないかと思います。

○富士会長　今は小学生に対して環境教育をしています、ただ、中学生、高校生、大学生についてはどのような環境教育や取組をしているのか、年代別の取組が整理できれば、整理していただければと思います。

それから、SDGsですが、世界の動向は、まさに持続可能な発展です。貧困をなくすというのがベースになる考え方だと思います。平等な配分などの考え方とともに廃棄物の話も入っています。国の考え方にも取り入れられていると思いますが、このほかに、国際的な動向についても入れていただき、意識して計画を立てることが考えられるのではないかと思います。

○草野委員　意識するというか、大きな動きがあることを把握しながら動いていくことで社会的なロスが減っていると思うので、そこが重要だと考えております。例えば、2020年のオリンピックのことを時々お話ししておりますが、そこでもSDGsという考え方をもとにして、持続可能な展開をしていくためにはどうしようかということが掲げられていたりします。

管理目標など具体的なお話はこれからだと思いますが、そういうことを考えていくときに、大きな動きとしてこういうものがあるのだなというところから、身近な札幌市まで落としていくことができると、指標が考えやすくなるのではないかと思います。

○事務局（山岡循環型社会推進課長）　先ほどの草野委員からの世代別や年代別のアプローチについては、環境教育と考えてよろしいでしょうか。それとも、ごみの減量、資源化の取組も含めて札幌市としてこういう年代にはどういう施策を打っているのかということでしょうか。

○草野委員　混ぜて言ったと思います。ただ、残りの期間で考えたときに、全部を収集し

て整理するのはさすがに難しいと思いますので、可能な範囲でお願いできればと思っています。ただ、この議論の中でも、全体が見えにくいところが出てきていると思いますので、それを整理していく動きはあったほうがいいと考えております。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） 草野委員から一つ目にご意見のあった件ですが、次期計画の方向性の2番目で基本方針を4つ挙げておりますが、今後、戦略的にどうしていくか、この場で私からお答えするのは難しいですけれども、4つの基本方針はこういう関係だと思っています。

1つ目の3Rのさらなる推進は、当然必要です。ただ、それをやるときに、3つ目の効率性の向上を大きく意識した上で行うことになると思います。3Rをさらに推進していくための手法についてが、2つ目の市民・事業者・NP0等との連携だと思います。どうやって進めていくかというとき、市民・事業者・NP0等との連携が必要になり、連携すれば3Rのさらなる推進がうまく進んでいくという関係にあると思います。4つ目の安全・安心は別の話で、まさに、災害に対する備えですので、システムをどうやって強靱化していくかとか、それによって市民に安全・安心をどうやって確保していくかということが、4つの関係になっていると思います。

それを戦略的にどう進めていくかというところまでは、今の段階ではお答えが難しいと思っています。

○福士会長 大きな4つの基本方針が挙げられていて、それを実現するために重点的に取り組むべき事項があると思います。ただ、基本方針と具体的に取り組むべき事項をどうつなげていくかということがあります。そこは、おっしゃったように、戦略的につなげてやっていけるような形にしていっていただければということだと思います。

ほかにはいかがですか。

○木澤委員 次期計画の方向性の中でうたわれている市民・事業者・NP0の連携やコーディネーターのところで、行政側が担うものについて、もう少し突っ込んだ形の表現がされる予定はあるのかなと感じております。

先ほど草野委員から出たSDGsの話と関係するかもしれませんが、今、事業者側は、どちらかというと、CSRからCSVにどのように移行していくかという段階に入ってきております。なかなか寄付活動のみということではないような方向性も出てきておりますので、事業者のかかわり方も新たな場面に入ってきていると思います。そういった中で、行政のアプローチの仕方を考えていただければと思います。

それから、先ほどもお話に出ましたが、安全・安心の中の大規模災害の備えというのは確かに大事なお話かと思っています。この中で近隣市町村ということがうたわれていますが、具体的に札幌市以外の近隣の市町村はどこなのか、それから、廃棄物の処理システムという言葉が具体的にどこまでなのかというのが見えないと感じております。

○福士会長 これについて、何かコメントはできますか。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） 2つあったかと思っています。

基本方針の2つ目の市民・事業者・NPO等との連携のところで、抽象的な書き方ではなくて、どこまで具体的に書けるのかとか、事業者の役割が若干変わってきていて、新たな動きもあるというお話だったと思いますが、その辺はまさにこれからになると思います。漠然とした書き方だけではなくて、具体的にこんな形で連携するというものがもしあれば、それは出したほうがいいと思っております。

2つ目の近隣市町村との連携については、札幌近郊の4市2町1村ですが、災害時の協定も含めて、現に市町村連携の仕組みができ上がっておりますので、一旦はそれをベースにということになると思います。

○事務局（水城調整担当係長） 廃棄物処理システムという、確かに人によって範囲のとり方が変わってくると思います。例えば、清掃工場でのごみ焼却のように処理がメインというとり方もありますし、市民の分別、排出、収集、処理という一連の流れをイメージされる方もいらっしゃると思います。そのあたりは、範囲が明確になるような表現が見つかれば、そちらに置きかえることも必要だと思っております。

○福士会長 近隣市町村との連携では、平成25年度に札幌圏の7市町村と大規模震災が生じたときの相互支援協定を締結しているようです。それから、平成28年10月から石狩市と当別町のし尿の受け入れを開始しています。ただ、し尿の受け入れだけではなくて、もう少し広い範囲での取組も可能ですし、震災時の相互支援も含めていると思います。システムという難しい言葉を使っているのも、ちょっとわかりにくくなっている気がしますが、恐らく、システムを広げていきたいということだと思います。

不勉強でわからなかったのですが、事業活動としてCSRからCSVに移行しているという話がありました。これについて、もう少し説明していただけるとありがたいです。

○木澤委員 私も余り詳しくありませんが、CSRというのは、企業の社会的責任という言葉に置きかえられていて、環境負荷低減に向けてどのような取組をするかということです。そこから、共通価値を創造していこうということで、企業として、利潤を追求していきながら、環境負荷の低減や持続可能な社会活動に取り組んでいきたいということだと思います。

一例を出しますが、ニューヨークの自由の女神が非常に古くなって修復するときに、カード事業者が、そのカードを使う、あるいは会員になることで、そこからのフィーを寄附に充てる取組を行ったところ、カード事業が非常に伸びた事例があります。このような経済活動を通じてお互いにウイン・ウインの関係ができるという考え方のようです。

○福士会長 ありがとうございます。ほかに何かありますか。

○武藤委員 同じ話になってしまうかもしれませんが、管理目標のところで、市民と事業者の取組を評価する視点に立った目標があります。目標はこれから決まるという話がありましたが、企業は、CSRの観点などについては非常に強く思っております。企業は、基本的に、企業を存続させるためにも、地域や社会の役に立たなければならないということでCSRを強く行っています。そういうことを考えると、ここの評価をしっかりとものにすれば、

企業としての協力はまだまだ得られると思いました。

話は変わりますが、先ほど清掃工場の見学の話がありました。私の娘が小学校4年生で、実際に清掃工場を見学しましたが、しっかりと役立っていると感じています。母親に、こういうごみは洗って出すと学んだよと言っていましたし、親の意見も聞きながらやると、もっと具体的にいいものが出るのかなという気になりました。

子どもを持っている親を見ていると、朝、ごみステーションにごみを捨てるのは子どもの役目になっていますので、しっかりと身近になっていくと思います。この取組はいいと思いますが、もう少し意見を聞きながら、具体的にできればいいと思っています。

○富士会長 どうもありがとうございました。

ここは、非常に新しいところだと思います。今までは行政だけの計画という考え方だったと思いますが、公助だけではなく、市民がやっている自助、みんなでやっている共助などの社会の部分の評価していくことが非常に重要なことだと思います。企業も、こういう取組が正当に評価されれば、もう少し頑張っってやっていこうという気持ちになると思います。

ほかに何かありますか。

○草野委員 2つあります。

1つ目は、効率性や効率化という言葉が出てくるとありますが、今の大きな動きから考えると、IoTやビッグデータなどがあり、それによって廃棄物の全体的なコストと効率化を図っていくという動きが推進されていくと思います。今のところ、計画の中にはその辺の視点が余り入ってきていないと思います。ここに入れるのかどうかはわかりませんが、そういった視点が今後入ってくるのかということが1つ目です。

2つ目は、例えば、3Rのさらなる推進のところで、未利用資源の活用とありますが、民間が新規で資源化する事業などを立ち上げるときの企業支援の動きをしていくことは、今後の話として考えたほうがいいのか、こういうところでお話ししたほうがいいのか、私の中では判断できませんでした。そういったことも視点として入れてもいいのではないかと思いますので、ここに含んでいますということがあればお聞かせいただければと思います。なければ、今後の検討なのかなと思いながらコメントしております。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） まさに、どちらも、4番目の次期計画策定において留意すべき視点に入れていただくのが一番ありがたいと思います。

○富士会長 ビッグデータの活用ということですが、例えばどういうものをお考えですか。

○草野委員 例えば、ごみ収集運搬の動きがあると思います。札幌市内のどのごみステーションからどれぐらいの量が出ているかというデータは、集めようと思ったら集められると思います。そのデータを蓄積していくと、どの運搬ルートが最も効率的なのか、恐らくAIがはじき出すことが当たり前の技術になっていくと思います。そうすることで、収集のシステムを効率化し、運搬の無駄を減らし、その分、リサイクル率を上げていくための動きがつけられるなど、効率性ということについてはそういうお話です。

○福士会長 先ほど、情報提供という言葉もありましたが、札幌市には自治基本条例があり、そこには情報共有という言葉があります。例えば、リサイクルルートをわかるようにしたいというときに、どこかの事業者に委託する場合、その事業者がどういうルート、どういう形で処理しているかというところまではわかりません。ただ、そういうところがわかると、非常に臨場感が出ると思います。要するに、事業者名まで知りたいという人までいるということです。何となく、こうなっているというだけでは物足りないということです。そういうところがあると思います。

かつ、市民にわかりやすく知ってもらうためには、情報の加工が重要だと思います。行政の方たちは、実際にやられているので、現場感覚でわかりますが、市民は現場感覚がわかりませんので、情報を加工して、提供して、うまく見せていくことが必要なわけです。今後、そういう取組が必要な気がしています。

ほかにいかがですか。

私から、今まで気になっていたことを話します。

一つは、物事を考えるときに、最低限しなければならないことと、ここまでできれば良いということ、それとこれができるれば理想的であるという3つがあります。廃棄物行政で、最低限、何をしなければいけないかという、処分場の確保です。札幌市では余り問題になっていないので、話題になりませんが、私は一番重要だと思っています。情報提供としては、現処分場の処理能力があと何年あって、どういう目途を立てているのかということとはどこかに書いておいてほしいということが1つあります。

それから、部会有的时候に、観光ごみとイベントごみを重点的に取り組むべき事項として提供されましたが、部会では、重点的には取り組まなくていいのではないかということになりましたので、重点的に取り組むべきことには取り上げませんでした。例えば、環境基本計画のように、世界に誇れる環境都市札幌ということになると、外国人観光客が実際に増えていますし、札幌市は自分のまちとは違う、きちんとやっているというイメージで帰ってもらうということです。ですので、留意すべき視点のところイベントごみ、観光ごみについて取り上げていい気がしています。

ほかにありますか。

○永井委員 高齢化など今後の社会への対応のところでは。

高齢者向けに、今月、ちえりあで、スリムネットフォーラムを開催しました。遺品整理士の方とコラボさせていただいて、ミニ講演とパネルディスカッションを行いました。定員200名のところ200名以上が来場され、50名以上に帰っていただいたということで、非常に関心が高かったです。西区でやりましたが、市内各所からいらっしやって、遠くから来たのに帰されるのかというお叱りを受けるほどでした。

ご参加いただいた方の年代はかなり幅があって、関心の高さを思い知りました。このようところに話を聞きにくるということは、家の中にあるものを意識的に何とかしなければいけないという、そのきっかけが欲しいということと、方法を知りたいということでは。

らっしゃった方がいらっしゃると感じました。

元気なうちにお片づけという題だったので、動けるうちに何とかしたいという意識があるので、そこに寄り添っていけるようなシステムがあったりするといいと思います。あとは、もっと発信して、そこがきっかけになり、うまくリサイクル、リユースに結びつけていければ、よりごみ減量にもつながると思いました。

それから皆さんの話を聞きながら思ったことを羅列させていただきます。

企業の取組への表彰制度に関して、どのように表彰していけばいいのだろうと思いました。例えば、六花亭では、エコ包装ではなく、ばらばらにものを買うことができるところがあるとか、いろいろなところで目にします。これを表彰という形ではなくても、ここではこういう取組をやっているということをもっとたくさんの人に知っていただきたいので、それを知らせるためのツールはないか、日々考えつつ、よくわからないで過ぎてしまいます。

それから、私は子育て世代ですが、教育関連で言えば、小学校にはエコキャップの回収コーナーなどがありますので、子どもたちの意識はあります。4年生になると、清掃工場に行くと、どうすればごみが減ると思うかを子どもたち自身に考えさせる、アイデアを出すということもあります。それを学校だけにとどまらず、子どもたちの意見が上がってくると、よりいいと思ったりしています。

後はエコチルという雑誌をご存じですか。幼稚園に子どもが上がったときに初めて目にしたのですが、社会とつながる雑誌で、それを毎月もらってきますので、月1回、環境を意識する機会をいただいていた。それは、小学校に上がってももらえます。子どもが幼稚園と小学校にいたときは家に2部が届くので、そこはエコではないなと思いましたが、中学校になったらもらってこないの、幼稚園、小学校世代だけに配布されているのだと思います。高校生の子どもがいますが、その辺になると、清掃工場に行ったことは記憶からなくなっています。高校では地球規模の環境については勉強しますが、身近なことを勉強する機会はないのだと思いました。ですので、途切れずにやっていけるような体系があると、大人になっても定着するのではないかと思います。

○福士会長 遺品整理には私も興味を持っていて、講座はどのぐらい入っているかを聞いたことがあります。来ている人は、本人ではなくて、父親、母親の遺品整理をしたいという50代ぐらいの方も随分と興味を持っていらっしゃるようです。

○永井委員 たくさんものが残っていると、コストがかかるという話を遺品整理士の方がおっしゃっていました。俺が旅立った後は頼むと言う方もいますが、現実的にこれぐらいのコストがかかるということもありますし、大切なもので資源化できるものも全てが廃棄物として出されるので、それはエコではありません。ですので、使えるものは生きているうちに還元するべきだという話をされていました。

いらっしゃった方は、60代、70代が多かったです。

○福士会長 ほかにありますか。

○草野委員 たしか、前回の委員会のときに、基本目標のところに文章が入っていましたが、取組意欲が湧くとか、石井委員から、夢が描けるようなものという話があって、それがずっと私の頭の中に残ってしまっていて、お時間があれば皆さんに聞こうかなと思いました。

遺品整理みたいなお話は、安心して人生の最期を迎えたいというところが全面的に出てきて参加者がたくさんいるという話であれば、例えば、次世代にきちんとした社会をつくってから最期を迎えましょうということが基本目標のところはどう表現していったらいいかと思っております。

基本目標を考えるに当たって、読んだ人が自分事として捉えるような言葉にしないと、人には共感されないと思っていたときに、遺品整理のお話は、若かりうが、どの世代においても、自分が最期をどう迎えるのかというのは共通の話題なので、そういうことが基本目標の中にエッセンスとして入ってくると、ごみの問題が一気に自分事として感じられるようなヒントがあるのではないかと思って、今、いいキーワードをいただいたという感想です。

○桑原副会長 永井委員から、高齢者の講座のお話をお聞きしましたが、これから、高齢者の遺品整理を家族全員が検討しなければいけません。それも、元気なうちにということですが、そのとおりだと思います。

それで、部会でも出ていたことで、民間事業者が新しい事業として取り組んでおりますが、どこが安心して頼める業者なのか、事業者選びがあってないようなもので、どこを基準にしているのかわからない状態で、トラブルにもなっております。札幌市内でも実際にそういうトラブルがあって、何万円も前払いしたけれども、何日たっても片づけに来てくれないというトラブルになっています。

そういう中で、宅配業者が快適生活ということで、暮らしの整理術というお片づけメニューをつくっています。この中で、家具の移動、お部屋の片づけパックなどがあります。これは、年代問わず、社会問題にもなっているぐらい大変ですが、生前整理パックというものもあります。これは、4平米で7万円です。具体的に利用料が示されると、随分と高いのです。それからメモリアル整理パックというのは、4平米の整理で11万円です。ですから、30坪ぐらいの戸建て住宅の整理というと、大変な金額になってくるということです。どれだけの整理になるのかわかりませんが、今、全部が廃棄物となってしまうと、リユースもリサイクルもできない状態になっています。将来的には、私どもも情報整理をして、消費者へ示していかなければならないのではないかと思います。

もう1つ、教育の中で、小学生までは社会見学に行っているようですが、中学生、高校生さらにその上となると、環境学習の機会はないと思います。新社会人として札幌市民になる方も大変多いですから、そのときがチャンスだと思います。新しく札幌市民になるときに、例えば、昔、私どもの団体は、若者ノートというものを小さい手帳版でつくって成人式のときにお配りしたことがあります。そのように、町内会に加入している方たちは大きな保存版の冊子を各家庭でお持ちだと思いますが、新しい市民に向けての情報提供にも

力を入れていただきたいと思います。手帳に挟んで、そのときそのときに利用できるようなPRの仕方も大事になってくるのかなと思っております。

○赤城委員 遺品整理のお話が出ておりますが、私も整理士です。遺品整理というのは、引っ越し屋やリユースショップ、便利屋さんなど、商機だと思っていろいろな業界から参入してきて、勝手に遺品整理しますと名乗ったものですから、金額的にも濃淡がありますし、やり方も、大ざっぱなものから非常に丁寧なものまであります。

それが問題になって、今、千歳に遺品整理の協会ができて、遺品整理士という民間の資格ができました。4月に、遺品整理を現場でやってみるという実習があり、遺品整理士の方たちも集まって、講演会をしたり勉強会をしたりしてスキルアップをしております。

ホームページを見ると、優良企業が幾つか出るようになってきているので、業界でも、悪質な人たちを排除して、できるだけ優良で、金額的にもちゃんと提示できるような状況をつくりつつあります。市民を対象に講演会や実習ができるといいというところですが、今は余力がないので、そういう機能を構築しつつある段階だと思います。

今、皆さんがおっしゃるように、私の母のものを私が片づけるのかと思ったら恐ろしい状態です。そう思っている方はたくさんいるので、これからのニーズとして、捨てるだけではなくて、どうやってそれを資源化していくのか、情報提供が必要な分野だと思っております。

それから、教育については、いろいろなところから来ている人たちに、いかに札幌方式を浸透させるかということで、大学でも、新入生を迎えたときに、町内会の方とワークショップをさせていただくなどコミュニケーションをとらせていただいております。今までは家庭教育でごみの分別を教えるというところが根強くあったと思いますが、現在はそこがなくなったにもかかわらず、学校教育がなかなか追いつかない状態なので、子どもたちに教えて、10年後、30年後に家庭教育が回復していくことを目指して学校教育の中で教えるということです。常に、学校教育や行政が頑張っていなければいけないという状態は不健全だと思うので、家庭にそういう教育を返していくために子どもたちへの教育を頑張っている過渡期であるという捉え方が必要だと思っております。

○福士会長 学校教育が家庭教育に反映されるといいですね。ただ、その前に、学校教育できちんと教えていかなければいけないという状況があると思います。

ほかにいかがでしょうか。

○武藤委員 先ほどからお話を聞いていて、私の実家の両親が高齢なので、我々がしっかりと流れをつくっていくといけないとすごく感じました。

話が変わりますが、先ほどエコチル新聞の話が出ていました。たしか、小学生に配られていて、非常に役立つ新聞です。それをつくっている方とは、仕事の関係上、仲がよいのですが、札幌で成功して、東京でも同じような新聞が配られています。中のコンテンツは、環境なので、森づくりなどがありますが、子どもたちにこういう機会で教えられることがあればいいのかなと思います。

さらにすごいと思うのは、この新聞は、行政からお金をいただいていなくて、企業の広告で賄っています。なぜできるかというと、先ほど話したCSRです。企業がCSRに取り組むときに、何か地域の役に立ちたいが、自分たちでは何をやっていいかわからないということがあります。そういうときに、環境に役立つ新聞があり、寄付を集めているということで企業が参加し、新聞が成り立っています。そのスタンスがずっと続いていて、あの新聞はすごいと感じたので、補足になりますが、お話しさせていただきました。

○福士会長 行政がやるだけではなくて、個人、NPO、企業に協力していただくことが多くなると、非常にいいと思います。

ほかにありますか。

○納谷委員 今の話を伺っていて、行政が企業をどう評価するのかという面で1つ考えたことがあります。

今、札幌市には、SAPPORO（サッポロスマイル）という赤い笑顔のマークがあって、会社とコラボして、ポスターやホームページにも出ておりますが、私はあのマークが大好きです。それで、取組をした企業に対して、ロゴか何かを札幌市でつくって、それを使えるようにする資格を与えるといいと思います。

つまり、札幌市とやっている企業はそのロゴマークを使ってもいいということです。企業は、札幌市に評価してもらいましたという信頼を次のお客様に与えてブランディングしていくわけなので、ロゴか何かを札幌市の方がつくって、飲食店であればステッカーをお店に貼ったり、消費者に見える形でどんどんPRしていくということです。それがどんどん増えていくと、そのロゴマークの認知度も上がっていくと思います。

そうすると、こういう取組の力が強くなってきて、ブランディング力が上がってくると思います。それに対して、企業は、札幌市に認められようとして頑張っていくというプラスに回っていくと思いましたので、1つの案として考えていただければと思います。

○福士会長 企業も、何か取組をしたいと思って、いい取組をしていることに対して、みんながその取組を知ることができるようにしたり、札幌市から助かっていますという気持ちを表すようなものができればいいなと思います。

ほかにいかがでしょうか。

私からも一言。私は法律を専門にしていますが、食品リサイクル法などの法律をきちんと執行するということが大事だと思います。例えば、レストランなどは、飼料化や肥料化を余りしていなくて、リサイクル率は低いです。この前、横流しの事件がありましたが、リサイクル施設がないということがあると思います。

現在も、生ごみについては、リサイクルをする施設の容量が限られています。それも大きな理由になりますが、逆に、民間でリサイクル施設がたくさん出て、事業として成り立つようになればリサイクルが進んでいくかもしれませんし、容量を増やしていくことも考えていいのではないかとということが1つあります。

ほかに何かありますか。

（「なし」と発言する者あり）

○福士会長 それでは、今、議論いただいた内容を踏まえて、起草委員会で答申案を作成してまいりたいと思います。

続きまして、議事の２つ目の起草委員会についてに移ります。

まず、事務局から資料の説明をお願いいたします。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） それでは、議事の２つ目の起草委員会について、A4判１枚物の資料をもとに、起草委員会のスケジュールやメンバーの案について、事務局から説明いたします。

まず、起草委員会の役割についてですが、審議会として、第１回の本会議において札幌市から諮問した次期計画の方向性について、これから答申を行っていただくわけですが、事務局で用意した資料に本日のご議論、ご意見を含めて肉づけを行って、具体的に答申案を作成する作業チームという役割を起草委員会は担うことになります。

次に、２番目のスケジュールについてです。

起草委員会は、４月下旬と５月下旬に２回開催する予定になっております。この２回の委員会で答申案を作成し、６月に予定している審議会の本会議で委員の皆様にご答申の内容について審議、ご確認していただくことになります。

予定ですが、７月に審議会から札幌市に答申書を提出するというスケジュールを考えております。

３番目の起草委員会の委員について（案）です。

起草委員については、福士会長と事前協議を行い、グループ会議や所属団体のバランスなどを考慮して選任した委員をあくまでも案として記載しております。

メンバーは、福士会長、2Rグループの部会長を務めていただいた桑原副会長、本日欠席ですが、資源化グループの部会長を務めていただいた石井委員、市民、地域の立場から河崎委員、NP0の立場から草野委員、企業の立場から武藤委員、以上６名を事務局から提案したいと思います。

石井委員については、欠席ですが、起草委員をお引き受けいただくことについては内諾を得ております。

起草委員会についての事務局からの説明は以上になります。

○福士会長 どうもありがとうございました。

４月から５月にかけて開催予定の起草委員会の委員について、ただいま事務局案のご提示がありましたが、ご意見、ご質問等はございますか。

（「なし」と発言する者あり）

○福士会長 起草委員会の選定については、事務局案のとおりとさせていただきますよろしいですか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○福士会長 それでは、そうさせていただきますと思います。

それでは、本日の審議はここまでとして、次年度のスケジュール等について、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（山岡循環型社会推進課長） 年度内最後となった第8回本会議でのご議論、本当にありがとうございました。

4月からの新年度は、現計画の最終年度になるとともに、繰り返しのになりますが、この審議会から答申をいただき、その内容を踏まえて考え方を反映させた新計画を策定する重要な1年となります。

役所は、4月に必ず人事異動がありますので、事務局も一部でメンバーが変わると思いますが、この間、委員の皆様には、本当にご熱心な審議をしていただいたことに対して厚く御礼を申し上げますとともに、委員の皆様の任期は今年12月14日までとなっておりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

○事務局（高橋企画係長） 皆様、ご審議をありがとうございました。

私からは、今後などについて、簡単にご説明させていただきます。

先ほど決まりましたが、選任した6名の起草委員による起草委員会を4月、5月に開催して、そこで答申案の内容について具体的な議論を行っていただきます。その起草委員会で作成した答申案について、6月に開催する予定の本会議で、本日お集まりの委員の皆様にも最終確認を行っていただいて、7月に答申というスケジュールで進ませていただきたいと思いますと考えております。

起草委員会、本会議の開催日程については、新年度早々、皆様はお忙しいと思いますが、起草委員の皆様には本日も明日には日程確認のご連絡をとらせていただきたいと思いますと考えております。本会議の日程については、6月になりますので、随時、調整させていただきます。

皆様、お忙しい中だと思いますが、引き続きよろしくお願いいたします。

3. 閉 会

○福士会長 以上で、第8期札幌市廃棄物減量等推進審議会の第8回本会議を終了いたします。

本会議としては6月まで間があいてしまいましたが、皆様のご協力を得て、よりよい答申をつくってまいりたいと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願い申し上げます。

本日は、お忙しい中、どうもありがとうございました。

以 上